

令和6年度 学校関係者評価について

学校番号 79 松本深志高等学校

学校評議員会において、学校の教育活動についてご説明し、その後、職員と意見交換を行った上で、学校評議員の皆様から「自己評価の適切さ」という観点で評価いただきました。

評価基準は、適切ならば5、ほぼ適切ならば4、どちらでもない3、やや不適切ならば2、不適切ならば1、としました。まとめたものは、下表のとおりです。

評価の観点		自己評価の適切さ						
		評価者	A	B	C	D	E	F
A 教育活動	① 生徒の自主性を育てる	5	5	5	5	5	5	5
	② 広い分野で確かな学力養成・進路実現を図る	5	5	5	5	5	5	5
	③ 計画的な進路指導	5	5	4	5	5	5	4
	④ 自治活動の保障・自治の精神の育成	5	5	5	5	5	5	4
	⑤ 規律ある生活リズムをつくる	5	5	4	4	5	5	4
	⑥ 適切な個人指導とカウンセリング体制の充実	5	5	4	4	5	5	4
B 学校運営	⑦ 快適な学校環境の整備	4	5	3	5	4	5	4
	⑧ 保護者との連携	4	5	4	5	5	5	3
	⑨ 開かれた学校づくり	4	5	4	5	5	5	3
	⑩ ICTを活用した学校環境の整備	5	4	4	5	4	5	4

〔改善策等のご意見〕 ※【A】～【G】の符号は上表と一致

【A】・【E】・【G】

A教育活動について

(記述なし)

B学校運営について

(記述なし)

【B】

A教育活動について

- ② 改善策ということではなく意見です。比較的自由に自主性を大切にする校風だからこそ、知識の習得にとどまらず、体験を通じた探究が生まれていると感じます。こうした学びの環境が、生徒一人ひとりの主体性や創造力を育むことにつながっていると思いますので、引き続き活動をお願いします。

B学校運営について

- ③ ICTということの整備についてはお金もかかることですので、なかなか難しいとは思いますが、今後は必要なものですので、高校単体だけでなく長野県全体としての取り組みとして続けていただければと思います。

【C】

A 教育活動について
(記述なし)

B 学校運営について

- ② 地域との連携がより深まることを期待します。

【D】

A 教育活動について

- ① 先生方の業務は以前よりも多岐に渡るため、教職員間で教育活動の計画に関する完全なコンセンサスを得て生徒に対応するのは、なかなか難しいところもあるかと存じます(緩やかな基準の中で、各先生の良識にある程度委ねることも必要かと思いますが)。そのような中でも、生徒の身体・生命・財産の安全確保と、非違行為に走らないよう導くことは、生徒の深志でのあらゆる活動を保障するものかと思えます。また対外的にもこれらの点を外すと、何かと学校は責められやすい立場ではないでしょうか。ぜひこれらの点は全教職員一致して、生徒の指導に臨んでいただければと存じます。

B 学校運営について

- ③ 生成 AI の利活用は、教職員のみならず生徒にとっても、より良い学びの手助けになるものと思えます。生徒は吸収が早いので、生成 AI のうまい活用法だけでなく負の側面も、教職員は最先端の活用法を学ぶ機会などがあっても良いかと思いました。なお余計な情報提供ですが、不登校対策としてメタバースの有効性が指摘されており、松本市が推進する不登校対策のメタバースは文科省でも有名だそうです。

【F】

A 教育活動について

教育環境も恵まれていて現状のままで良いと思えます。自治を重んじる校風はこのまま生かして行って欲しいと思えます。

B 学校運営について

校舎の老朽化は少し気になります。特に窓や天井は地震の時に危ないと思うのでもう一度調査して欲しいです。トイレが改築され防犯カメラが同窓会の寄付で設置されたことは喜ばしいことだと思えます。